



一般質問

町の考えを問う

8人の議員が登壇

一般質問は、議員が町政全般について現状や方針を問うものです。一人当たりの持ち時間は答弁を含めて50分です。掲載している内容は、質問者自身が要約し広報広聴特別委員会が校正したものです。議事録は、議会のホームページのほか、ユーチューブでもご覧いただけます。

五十嵐一夫 議員（11 ページ）

1. だから新庁舎が必要なのです
2. 人口減少対策、移住、定住、交流人口拡大への取り組みについて

蓮沼文明 議員（11 ページ）

1. 町の政策戦略の1つとして総務課内「広報室」の設置について
2. コロナ禍における町のスポーツ推進事業の展開について
3. 坂下南幼稚園バス乗降口駐車場（町民体育館跡地）の有効利用について

物江政博 議員（12 ページ）

1. 子育て支援および保育行政の政策的位置づけと在り方について

横山智代 議員（12 ページ）

1. 職員の人材育成について
2. 「道の駅あいづ」について

佐藤宗太 議員（13 ページ）

1. 教育行政について
2. コロナ禍におけるさらなる町民支援について

小畑博司 議員（13 ページ）

1. 坂下町が進むべき道を示そう
2. 第6次振興計画の実質化を図ろう
3. 農業の振興策について伺います

目黒克博 議員（14 ページ）

1. 消防団及び消火活動への後押しについて

渡部正司 議員（14 ページ）

1. 協議の場について、町の政策協議に議会が参加する場の設置を（できるところから）



五十嵐一夫 議員

だから新庁舎が必要なのです

旧江戸鰯敷地を競売で取得しました

問 庁舎の執務室、区切りがない部署の業務上の機密事項が守られるか。

答 各フロアのミーティングスペース等を利用し、管理責任者を置き重要書類の保管に注意して対応しています。

問 本庁舎の玄関ホールにより良い待合スペースを。

答 提案の階段脇スペースは窮屈であり、現状では確保は困難であります。

問 職員の何人かは庁舎の飲料水は飲まないと答えたが庁舎の飲料水は安全か。

答 配管が老朽化しているが、安心と認識しています。

問 敷地を競売で取得し、用地取得が進んだがこの後の用地取得計画は。

答 令和4年度には建物解体を進め、来庁者駐車場として活用します。

問 周辺の集落維持対策について。

答 公共交通と商店街が連携した高齢者にやさしいまちづくりバス券補助事業による支援の拡大等、路線の存続を図っていきます。



取得した旧江戸鰯

人口減少対策・交流人口拡大対策

過疎対策に果敢に取り組みます

問 コロナ禍においての移住・定住事業がどのように実施されているのか。また今後の対応は。

答 お試し住宅は利用を停止しています。SNSを積極的に活用し情報発信をしています。

問 農業センターの住宅跡地を、菜園体験や会津観光の住まいとして、県と共同で取り組んでどうか。

答 県をはじめ関係機関と連携し、町の資源を活かし、魅力を伝える定住につながる施策に取り組んでいきます。

問 移住・定住、坂下の優位性は何か、優位性を活かしての取り組みは。

答 商業・医療・交通の利便性、豊かな自然を活かすこと、あらゆる媒体を活用し取り組んでいきます。イベントや大会での来町者が町経済効果に寄与する取り組みは、特産品の案内や町ファンを増やす取り組みを行っています。



蓮沼文明 議員

今後の町の政策戦略の一つとして、総務課『広報室』を設置し、情報発信の強化を！

機構改革において、全庁的に取り組む課題としてとらえ、その体制強化に努めて参ります

問 町総務課内に「広報室」を新たに設置し、町情報を新聞・テレビ等メディアに対し、より速く且つ正確に情報を提供することは、今後の町の政策戦略の一つと考える。「広報室」からの情報の発信強化策は、本町に必要不可欠と捉えるが、町の見解を伺う。

答 戦略的な情報の発信や情報発信体制の強化は、活力あるまちづくりや町の魅力を伝えるうえで非常に重要であると認識しており、第六次会津坂下町振興計画においても重点的に進める施策として掲げ、効果的な情報の発信・拡散に取り組むこととしております。現在検討している機構改革においても全庁的に取り組む課題としてとらえ、その体制強化に努めてまいります。

町民プールの温水化整備について、町の見解を伺う

整備費等を考慮すると、早急な対応は難しいと考えております

問 近年の少子化のなかにありながら、町民プールでの「ちびっこ水泳教室」は毎年、受講生が増加している。青少年の体力増強及び競技力向上並びに健康増進のスポーツ振興の観点から、町民プールの温水化整備について、町の見解を伺う。

点から、年間を通してのプール営業を望む声も非常に多い。町民プールの温水化整備事業について、町の見解を伺う。



元気いっぱいの水泳教室

答 心身の発達段階にある青少年期における体育・スポーツ活動は、単に体力を養うだけでなく、生涯を通じてのスポーツ活動の基礎を培ううえで極めて重要であります。水泳は、筋力・体力・心肺機能の強化だけでなく、リラクゼーション効果も得られることから、子供の健全な成長のためには良いとされており、町民プールの温水化事業につきましては、施設の整備費やランニングコスト等を考慮すると、早急な対応は難しいと考えております。

これも質問

問 コロナ禍のなか、町のスポーツ振興の柱としている事業は何かを問う。
問 幼稚園バス乗降所（旧町民体育館跡地）の有効活用について伺う。



物江政博 議員

今後の「子育て支援」を伺う
切れ目のない支援の体制づくりを進めます

問 当町の子育て支援の政策的な位置づけとあり方に関する基本的な考えについて。

答 具体的には、子供・子育てに対応するサービスの提供と、保育、教育、保健、福祉事業などを包括した切れ目のない支援の体制づくりを進めることを示しており、基本理念を「子育てに喜びを感じて安心して子供を産み育てる事のできるまち」として、社会全体で、子ども・子育てを支援する体制を整備することを目的とします。

問 当町の保育料をどのように捉えているのか。

答 保育料の設定については、国が「保育所徴収金額基準額」いわゆる国基準額を定めていますが、そのまま適用すると保護者の負担が大きすぎるため、各自自治体における実際の保育料は、国基準より低く設定される場合がほとんどであります。現在の当町の保育料は、国基準額の三割であり、残り七割を町独自の負担軽減としており、軽減分の試算額は年間約3千万円程度となっております。



子供たちが健やかに育つ環境を



横山智代 議員

「職員の人材育成について」
町民から信頼される職員の育成に取り組んでまいります

問 職員の適材適所への配置はなされているのか又、町民に信頼される職員の育成をどのように考え行っているのか。

答 職員の配置にあたりましては、異動等を申告する自己申告書に基づき、副町長、教育長及び総務課長が職員一人ひとりと面談を実施し、職員としての目標や意欲等を把握した上で、適材適所の配置に努めているところです。

「会津坂下町人材育成基本方針」の中に求められる職員像として「住民から信頼される職員」が掲げられています。公務員として質の高い倫理観を持つとともに、地域に愛着を持ち住民の声に耳を傾け、住民の目線で考え行動する職員、また協働のまちづくりを重視し、住民とのコミュニケーションを図られる職員を理想としております。庁舎内外を問わず、町民の方々に対しては、笑顔であいさつを交わし、相手に寄り添い分かりやすい対応を実践することを通して、多くの町民の方々から信頼される職員を目指してまいります。

「道の駅あいづ」の役割は何か
地域振興です

問 「道の駅あいづ」の果たす役割と町としての立ち位置はどのようなになっているのか。

答 「道の駅あいづ湯川・会津坂下」は地域の過疎化が進む中において、地域経済の活性化や観光振興、産業振興、雇用の創出等による地域振興を目的として、会津坂下町と湯川村が共同で設置した施設であります。町は「道の駅あいづ」が地域振興施設として役割を果たすよう、その運営に責任ある関わりをしていかなければならないと認識しております。



道の駅あいづ湯川・会津坂下



佐藤宗太 議員

コロナ禍におけるさらなる町民支援は独自の支援策を追加で実施してまいります

問 具体的な支援策は。

答 現在、国の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」における「事業者支援分」1,970万2千円の追加交付が新たに示されました。会津坂下町商工会と協議を行い、「会津坂下町生活支援事業」として町独自の支援策を追加で実施してまいります。

通学路合同点検における危険個所の対策は
順次対策を図ってまいります

問 危険個所の修繕計画等は。

答 合同点検箇所は、坂下南小学校区が15ヶ所、坂下東小学校区8ヶ所で合計23ヶ所となりました。確認した危険箇所については、その場で対応策の協議を行い、その中で、歩行スペースを確保するために外側線の引き直しや減速・一時停止を促すために破



安心して通学できる歩道を

線（ドット線）を引くなど早急にできる対策につぎましては、9月補正予算に計上しました。歩道の整備など、道路のハード面の対策は道路管理者へ、交通規制、横断歩道や信号機の設置など交通行政に伴う対策については、地元警察署に対して要望を行っております。



小畑博司 議員

“ばんげ”が進むべき道は「やつぱりばんげがいい！住みつづきたいやりたい事がある町」づくりです

問 気候変動が一層進み、少子・高齢化が進む10年後を見据えて、どんな町にしていきたいのか。

答 町がめざす将来像は、第6次振興計画にあるとおり「やつぱりばんげ」がいい！住み続けたい、やりたいことがあるまちです。そして、「ひとつづくり」「くらしづくり」「しごとづくり」「しくみづくり」によって持続可能なまちを目指します。



活用を待つ空き家

多くの意見を取り入れよ
アンケートを考えています

問 振興計画はより幅広い意見を取り入れ、町民全体で共有する必要があります。そのために、どんな町にしたいか、どんな暮らしがしたいか募集してはどうか。

答 振興計画を推進していくためには広く町民の意見を取り入れ、町の施策に反映させて行く必要があります。その手段として年齢性別を問わず、施策への評価や、意見・要望などを回答していただくアンケートを考えております。

これも質問

問 地産地消を前提とした最低価格保証付き有機野菜の栽培推進を。

問 イノシシ対策にもなると言われる山椒の栽培推進を。

問 耕作放棄地にならないように漆の植え付けと活用を。（会津塗に活かす）

消防団及び消火活動への後押しに
ついて

消防団の活動しやすい環境づくりに
努めます

答 火災発生時に消火活動を迅速に行うためには、消防水利等の位

問 火災現場での初期消火を円滑に行うため、地元消防団員以外に水利消火栓等の情報をいち早く提供する水利班を設置する考えは。

答 消防団の各車両には、町内各所の消火栓等の消防水利位置が明示されている地図が常備されており、火災現場への移動中に水利位置を把握し、消火活動を行う体制の確保を図っています。水利の情報を提供する「水利班」の設置は困難であると考えます。

答 現在、分団長を中心とした「会津坂下町消防団活性化委員会」

において、団員の確保、初動体制の確保及び消防団組織の見直しなど、消防団が直面している課題解決に向けて協議を行っています。町としても国が公表した「消防団の処遇等に関する検討会」最終報告書の内容を踏まえ、団員報酬や火災に関する出動手当、地域の実情に応じた訓練方法について見直しを進め、消防団が活動しやすい環境を整備に努め、自主防災組織など地域の防災に関する多様な主体の参画による、防災力の充実化を図ってまいります。



各所に設置してある消火栓



Portrait of Professor Shiro Kawai, a middle-aged man with glasses, wearing a dark suit and a light-colored shirt.

協議のあり方をどう考えているか

町民の声が届き、見える化や理解が進み、行政への信頼の醸成に貢献できる。

町が決めた政策を議会へ報告するだけではなく、議会からの意見が政策に反映されるように、協議の過程に議会が参加する機会を設けることについてどう考えるか。

答 町の政策協議に議会が参加することは、政策がより民意を反映させたものになると共に、さらなる住民サービスの向上に繋がるものと考えます。より広く皆様の声をお聞きする必要があります。委員の公募等の取り組みを進めて参ります。

問 事業の評価を議会（町民）とに進めることについてどう考えるか。

答 町の内部評価結果に基づき、目的や達成状況、課題などを議会と共有し、福祉の向上のためにも、多様な意見を反映することは意義があると考えています。具体的に協議をして

まいます。

問 町長は、『町民の意見を聞かせ
てもらいたい』と述べています
が、コロナ禍にあつてオンラインの可
能性を含み、どのように具体化してい
るか。

答 町長自ら赴く懇談会は、対面が重要と考えており、感染症状況を見極めながら開催します。コロナ禍で活用されているオンラインも有効な手段であるため検討します。

問 一般質問で取り上げられた内容のその後の対応は。

答 機会ある毎に施策に反映させ、事業の経過や進捗状況について報告しています。

